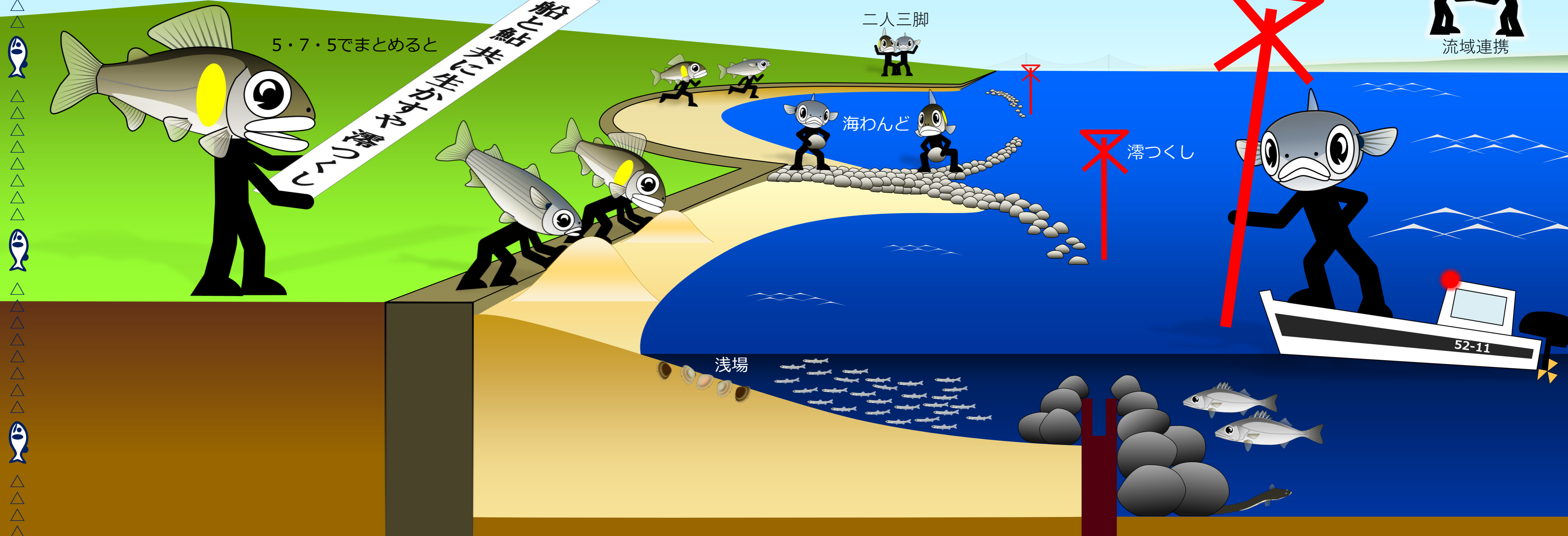


# 大阪ベイエリアに生きるアユのための海わんどと滞つくし

いのちをつなぐ水と流域 地球市民対話プロジェクト 中筋 祐司  
 地域対話フォーラム2024 in Osaka  
 2024年3月2日(土) 10:30~16:30

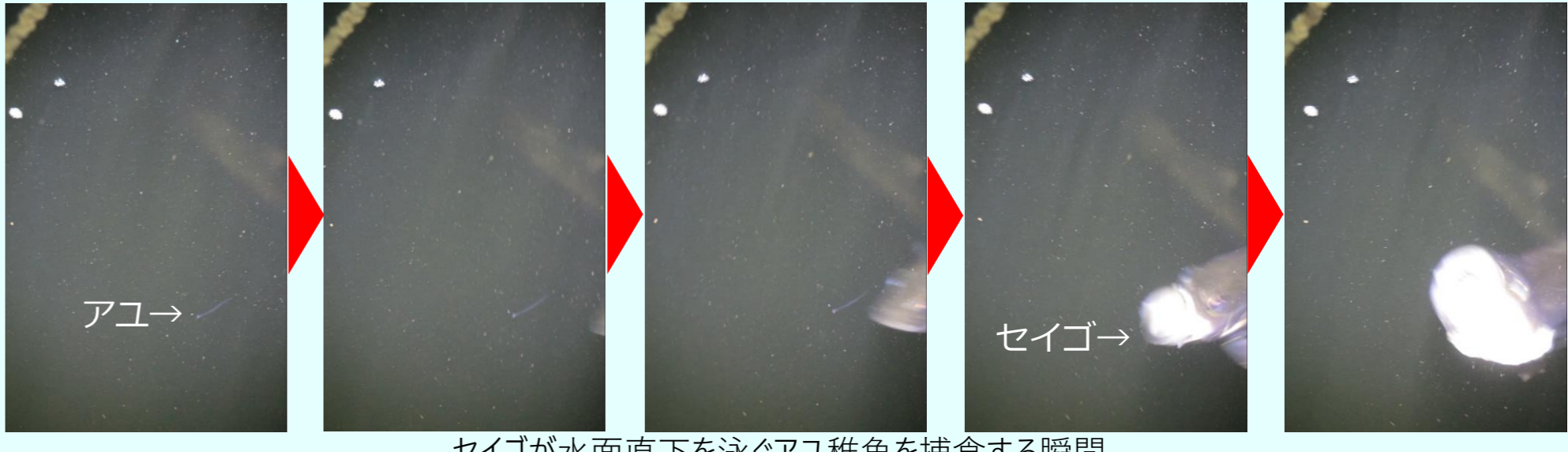
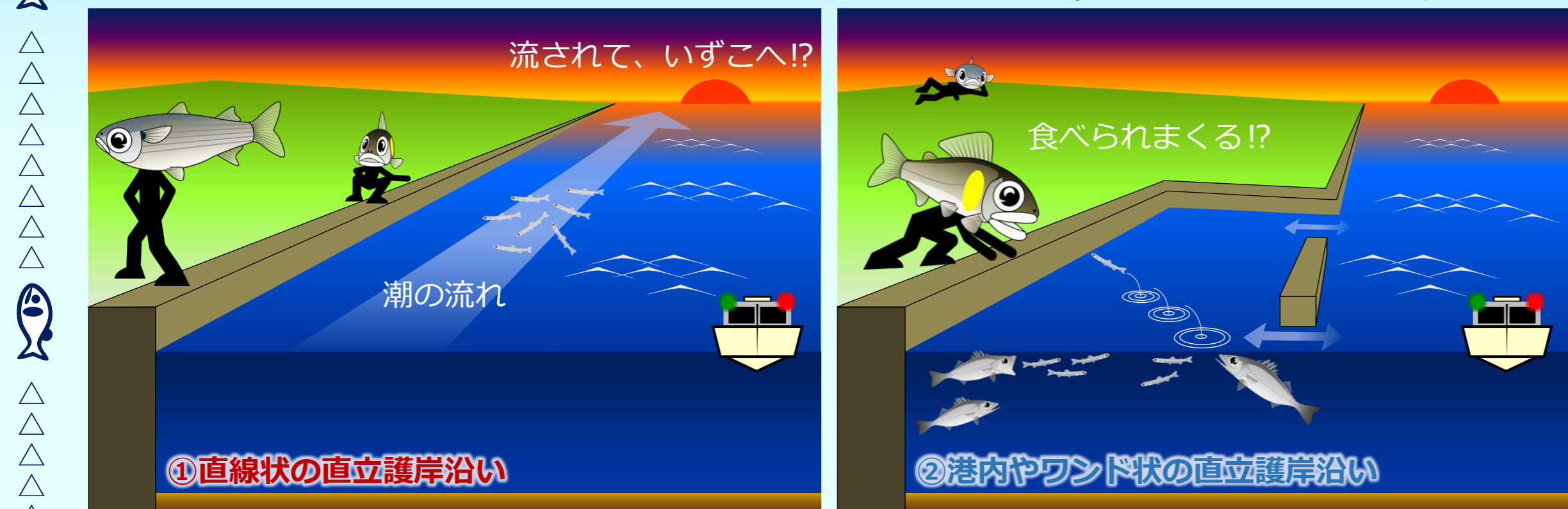
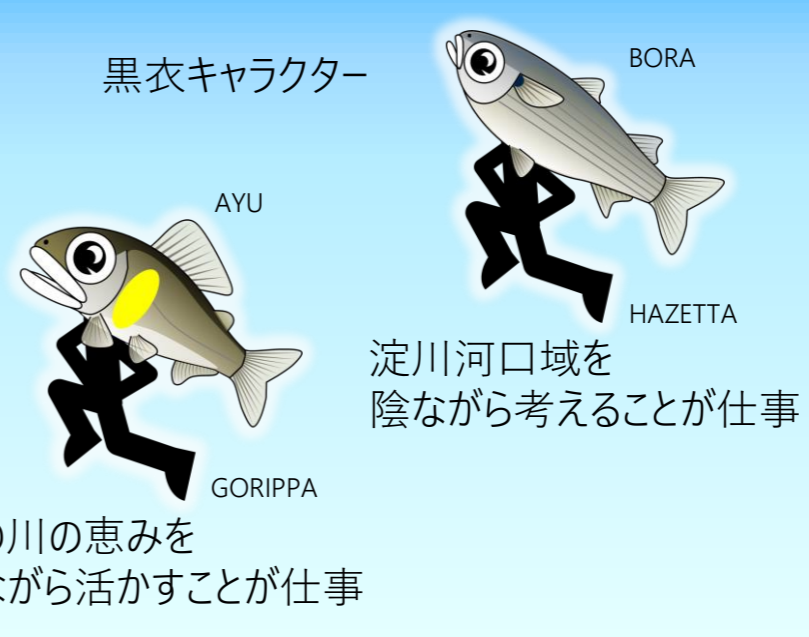
## 4 淀川のアユを増やすために、大阪ベイエリアでの提案

大阪ベイエリアにおいて、淀川から流下したアユ仔稚魚が留まれるよう、堤防(石積みなど)で一部を囲った「海わんど」をつくり【定着率UP↑】、また、捕食者のセイゴが居着かないよう、砂浜などの浅場をつくれれば【生存率UP↑】、そこは、良好な成育場になり得るのではないかと…? そして、浅場と航路との境界には、大阪のシンボルマーク「滞つくし」を掲げて、いのちをつなぐ水と流域を、未来へ…



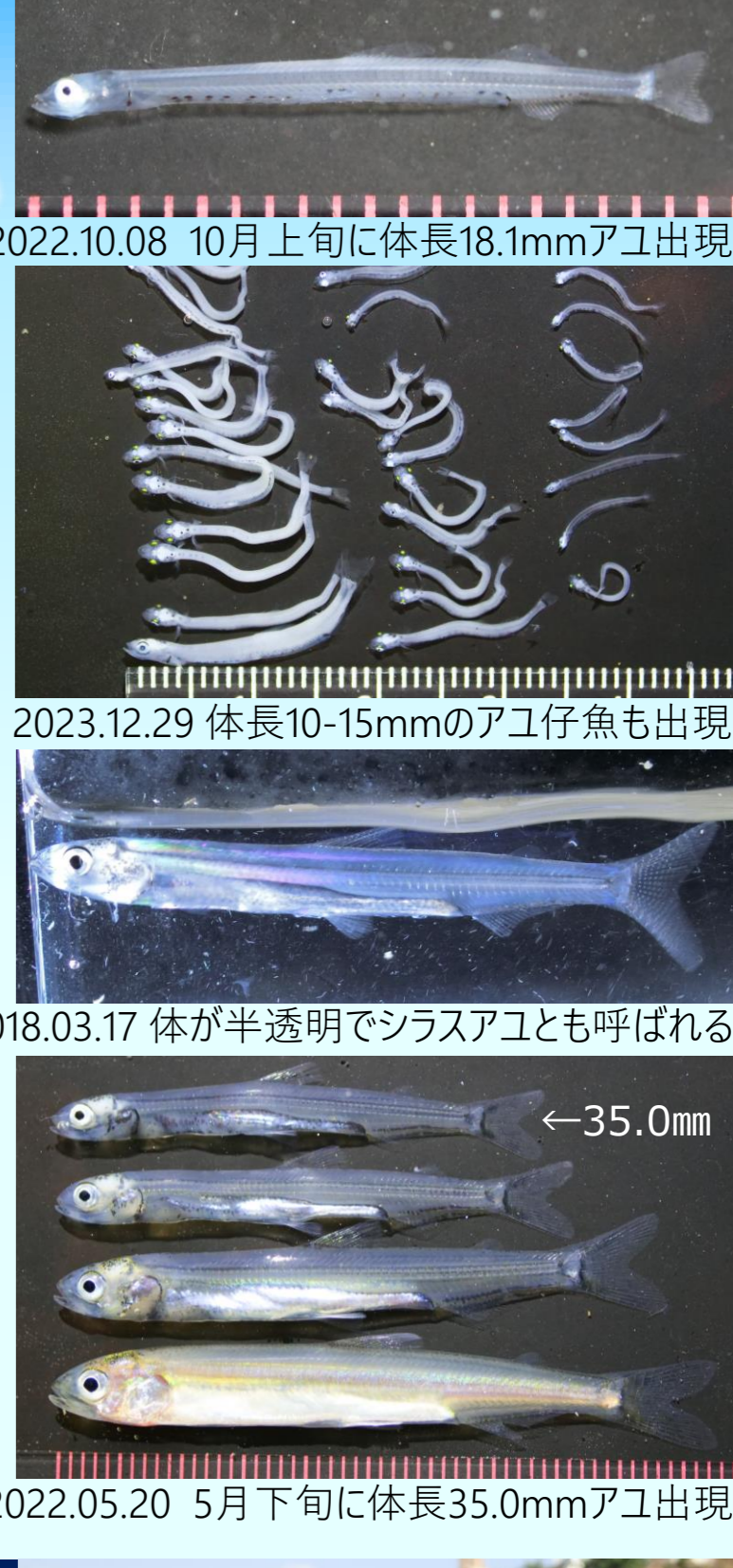
## 3 大阪ベイエリアにおけるアユ成育場の考察

大阪ベイエリアのアユ仔稚魚は、遊泳しながらも、潮流に運ばれ、①直線状の直立護岸沿いには定着できないが、潮が緩やかに通り抜け、波が穏やかな②港内やワンド状の直立護岸沿いを、結果的に居場所として選択しているようだ。なお、潮の流れの悪い奥まったところへは、潮に運ばれていくことなく、定着するに至らないと考えられる。しかしながら、居場所として選択した②港内やワンド状の直立護岸沿いには、セイゴ(スズキの幼魚)が居着いていることがある。そのため、アユ成育場としては、同じ環境に居合わせることで、捕食されることが多く、好ましくないとと言える。



## 2 謎を解くために、大阪ベイエリアの水面下を探求

冬の夜の大阪ベイエリアを探求、そして、2017.12.09に大阪北港マリーナで最初のアユ1尾を発見! それは、夏の夜の四万十川、最初のアカメ1尾を釣った時と同じくらいの感動! (アユ2.8cm=アカメ85cm) 30箇所以上を調べ、大阪・関西万博会場の夢洲に隣接する咲洲や舞洲、天保山、ユニバーサルシティポート横でも確認した。アユ仔稚魚の出現数が多い箇所を中心に調査は毎年継続し(施設管理者の許可を得て実施)、その結果、年・場所によって違うが、10~5月、大阪ベイエリアで成育していることが明らかになった。



## 1 淀川のアユ、そして、大阪ベイエリアのアユの謎

アユ仔稚魚にとって、波打ち際などの浅場が重要な成育場であると報告されている。淀川(神崎川・新淀川・旧淀川に分岐)が流下する海域「大阪ベイエリア」は、新淀川の汽水域に干潟などの浅場があるが、埋立地が広がりほとんどが直立護岸である。一方、3~6月、新淀川を経て、約3万~163万尾のアユが遡上(2012~2023年国土交通省淀川河川事務所)、また、旧淀川にもアユが遡上する。遡上数が多いとは言えないが、アユ仔稚魚が、冬の間に過ごす大阪ベイエリアでのくらしはどこにあるのだろうか?

